

## 120912 野生の「秋の七草」を探せ！

「秋の野に 咲きたる花を指(および) 折り かき数ふれば 七種(ななくさ)の花」  
「萩の花 尾花葛花 なでしこが花 をみなへし また藤袴 朝顔が花」

万葉集で山上憶良が詠んだ「秋の七草」の歌です…

「尾花」は、開いた穂を獣の尾に見立てた「ススキ」のこと、  
「朝顔」は、「キキョウ」のことだと言われています。

秋風に揺れる草原に彩りを添える七草ですが、いちどきに咲くのではなく、秋の深まりとともに花開いていくのです…

「秋の七草」はススキ草原やその周辺に生育していたのですが、放っておくと森林に戻ってしまう我が国の自然環境の中で、毎年刈り取って使うという人為によって、そのススキ草原が維持されてきたのです。

つまり、我々人間の生活と密接に結びついて維持されてきた「ススキ草原」という草地環境の中で生きることのできた植物だと言えるのです。

残念ながら、このような「草原」が維持されている場所が少なくなった現在、野生の「秋の七草」を見つけることは難しくなっていました…

でも…

草地環境が維持されている山頂付近を中心に、南河内の山々で探してみたところ…  
七草の内、**6種**を見つけることができました！

### ◆写真①： ハギ (マルバハギ)

◇古くから日本人の心をとらえてきた花で、万葉集では 141 首が詠まれています。

### ◆写真②： ススキ

◇昔は牛馬の飼料としたり、茅葺き屋根に使われていました。

◇ススキやオギのことを「茅(かや)」と呼び、集落の近くには「茅場」と呼ばれる広大なススキ草原が広がっていたのです。

### ◆写真③： クズ

◇根から採れる「葛粉」は、「葛湯」や「葛きり」の原料になり、乾燥させた根である「葛根」は薬として利用されてきました。

### ◆写真④： ナデシコ (カワラナデシコ)

◇「大和撫子」とも呼んでいます。可憐な花は日本女性の姿に重ねられたのですね。

### ◆写真⑤： オミナエシ

◇命名の由来は、しなやかな“立ち姿”からで、万葉集では女性に例えた歌が数多く詠まれています。

### ◆写真⑥： キキョウ

◇開花前の蕾は紙風船のようで、星型に開く美しい花は“家紋”にも使われています。

今回の調査で、「秋の七草」の内、野生のものを見つけることができたのは以上の6種でした。残念ながら見つけることのできなかった1種は「フジバカマ」です…

### ◆写真⑦： サワヒヨドリ

◇ススキ草原や溪流沿いの草地には、「ヒヨドリバナ」や「サワヒヨドリ」の花がたくさん咲いていました。

◇「フジバカマ」は“ヒヨドリバナ属”に分類されており、花だけを見るとこれらの2種と見分けることが困難なほどそっくりなのです。

◇平安の時代からもてはやされてきた「フジバカマ」に対して、「ヒヨドリバナ」や「サワヒヨドリ」は名も知られぬ野草と言えます。

そして現在、自生の「フジバカマ」が絶滅の危機に瀕している一方で、「ヒヨドリバナ」たちはしっかり生き残っているのです。

### ◆写真⑧： 3種の花

◇「ハギ」、「ススキ」そして「オミナエシ」の花が咲いています。





























